

医療機器業界の現状

例えばあなたが、胸に締め付けられるような圧迫感を覚えて病院に行ったとします。診断は狭心症、心臓の栄養血管である冠動脈の血流が不足することによって心筋が酸素不足に陥る病気です。悪化すると心筋梗塞を起こす恐れもあるため、冠動脈を広げる手術を受けることになりました。

まず検査のため、足の付け根からカテーテルと呼ばれる細い管を心臓付近まで入れ、その後ステントという金属製の筒を冠動脈に留置することで血管を広げます。時間にして30分程度、胸痛は嘘のようになりました。

あなたは現代医療の素晴らしさに心から感謝すると思いますが、実は前述のカテーテルやステントといった治療系医療機器は、実に90%以上を海外製品が占めています。

国内で使用者が40万人にも上るペースメーカー（不整脈の治療機器）の日本製品比率はなんと1%以下、手術件数が年間4万件以上に達する人工股関節でも80%近くを海外からの輸入に頼っています。またペースメーカー等はアメリカでは25万円程度の価格にもかかわらず、日本に入ってくると100万円以上の価格設定になっています。

このように国内における先進的治療領域における海外製品の比率や価格は、異常なまでに高くなっています。欧米ではあたりまえに使用されている医療機器が日本では未承認で使えない、そのことが医療費の高騰につながり、家計を圧迫する要因にもなっています。またなんらかの原因により輸入が滞れば、医療現場はたちまち大混乱に陥るという危険性も持っています。

当財団法人の代表理事である山田満は、日本の医療機器メーカーである大研医器株式会社の創業者として、長年この問題を見つめてきました。このような現状を嘆き、この国の基幹産業である「ものづくり」のひとつとして、若い人たちに医療機器の開発にもっと注目してほしいと考えています。

現在大学や大学院で医学や工学などを学ぶみなさんが、なんとしてでも国産医療機器の開発を推進し、最先端医療の現場で使われる精密機器の誕生に携わってほしい、そういった理念から、当財団法人を設立いたしました。

我が国の若人達に医療機器業界の未来を創造してほしいと、心より願っております。

